

まちサポ 「元気通信」

第8号

2007/5/1



編集・発行/まちづくりサポートネット元気な人間

事務局：入間市 市民活動センター内

〒358-0003 埼玉県入間市豊岡 4-2-2

TEL/04-2964-2511 FAX/04-2964-2519

http://machisapo.web.infoseek.co.jp/ Eメール/ shimin@ictv.ne.jp

……一人ひとりが住んでよかった、住み続けたいと実感できる、きらりと光る人間らしさを創りましょう ……

この2年を振り返って

入間市民と市長は平成13年の「元気な人間」都市宣言で、市民が主役となり活躍するまちを目指し、市民と行政がまちづくりにおいて「協働」する仕組みの確立を進めることを宣言しました。その宣言を形あるものにするために、「元気な人間まちづくり基本条例」が制定され、そこに謳われた推進組織として平成17年に、私たち「まちづくりサポートネット元気な人間」が立ち上がりました。

2年間の活動の中で、研修委員会、情報委員会を中心に多くの事業に取り組んできました。また、昨年からは市民活動の拠点である「市民活動センター」の受付業務を行うことによって、活動団体の皆さんと顔の見える関係づくりに努めてきました。

私たちの役割としては、各団体のみなさんの連携強化や各団体と行政とのパイプ役としての役割も担っていますが、まだまだ皆様のご期待に対応できなかったのではないかと反省しています。

今年度は、まちサポネット元気も3年目に入りましたので、市民がこれからも住み続けたいと思う入間市を創り出すために、市民がイニシアティブを持って新しい社会の仕組みを作り出していくための活動を推進していきたいと考えていますので、これからも、よろしくお願いいたします。

にぎやかに楽しく 登録団体交流会」開催される

3月25日(日)市民活動センター利用登録団体による団体交流会が開催されました。参加団体は、16団体、総数41名でした。

今回の交流会は「団体相互のネットワークづくり」というテーマで4班に分かれて、自己紹介から始まり団体の活動内容紹介、活動での課題、交流会の開催方法等について話し合いました。

各班からの発表では、個々の団体活動には人員や予算などに限りがあるため、利用団体でネットワークを組んで対応していくことの必要性や他の団体との情報交流の必要性、後継者の育成、及び各団体の活動拠点としての市民活動センター利用等が報告されました。また、まちサポネット元気が法人化することへの期待もありました。

なお、交流の機会として「センターまつり」又は「交流フェスティバル」を実行委員会方式で開催したらどうか、交流会を2～3ヶ月毎に開催したらどうか等の提案がありました。



< さ～ はじまり はじまり >



団体の底力アップ研修講座」を開催しました

団体の底力アップ研修講座と銘打って、まちづくり活動団体の皆さんが、新たな仲間づくりや新たな活動展開のヒントを探っていただけるような、ワークショップ形式の講座を3回連続で開催しました。

ファシリテーターはNPO法人ハンズオン埼玉の事務局長・若尾明子さんです。毎回、多数の参加者を得て楽しいワークショップになりました。



若尾さんは、もとIT企業にお勤めだったとか。そのころは朝出勤するとまずパソコン画面の「打ち合わせアイコン」のクリックから始まったそうです。(超ハイテク!)でも、これって・・・?と思われたそうです。やはりアナログが大切。だから今、ハンズオンの活動にワクワクしているそうです。その活動の基本は、「触る・感じる・参加する」です。

若尾さんは、もとIT企業にお勤めだったとか。そのころは朝出勤するとまずパソコン画面の「打ち合わせアイコン」のクリックから始まったそうです。(超ハイテク!)でも、これって・・・?と思われたそうです。やはりアナログが大切。だから今、ハンズオンの活動にワクワクしているそうです。その活動の基本は、「触る・感じる・参加する」です。

そのころは朝出勤するとまずパソコン画面の「打ち合わせアイコン」のクリックから始まったそうです。(超ハイテク!)でも、これって・・・?と思われたそうです。やはりアナログが大切。だから今、ハンズオンの活動にワクワクしているそうです。その活動の基本は、「触る・感じる・参加する」です。

NPO 法人 ハンズオン埼玉

市民が地域で地域のことを考えるための道具としてコミュニティシンクタンクをつくり、市民参加型のまちづくりやひらかれたコミュニティづくりに関する調査研究と政策提言、市民参加型のプログラム開発と推進、非営利組織の事業および組織運営の支援に関する様々な活動を実施しています。

URL : <http://www.hands-on-s.org/blog/>

第1回 ちと仲間を増やすには? 1月17日(水) 18:30~20:30

参加者 32名

市民活動の4つの要素は、調査・広報・会議・企画。これを「幸せの四葉のクローバー」と呼んでいます。仲間を増やすには、まず自分たちのことを知ってもらう方法について考えていきます。

本日の参加者の特性調査

A)人間市民歴を参加者の挙手で確認してみると。(左表)

ジモティーが多いことがわかります。とくに後半の方はそのまま、ご年齢ということでしょうね。生え抜きのジモティーです。

B)人間市(まち)の魅力は何?

・・・万燈まつりは知っていますか?

もちろん、参加者の全員が、知っていました。

全員でワンフレーズの自己紹介

・・・自分たちのことをどのように伝えるのか

印象に残るキャッチコピーと団体名、氏名をA4の紙に書き、それぞれが自己紹介。

メディア探しゲーム

伝える手段としてどのようなメディアがあるのか、各グループで模造紙に書き出してみました。5つのグループからは合わせて100以上も書き出されました。



参加者の人間市民歴

1年未満(0名)
5年未満(4名)
10年未満(3名)
20年未満(5名)
30年未満(10名)
34年(1名)
39年(1名)
46年(1名)
59年(1名)

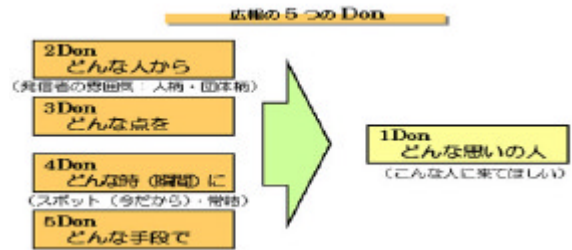


- 1) 活動を細かい解説より、興味を引くフレーズ。
- 2) 雰囲気を与え、質問を引き出すキャッチ・
・・・色の使い方、声の出し方、話し方などもポイント。
- 3) どんな人たちに伝えたいのか
・・・対象者をイメージできること。
- 4) 「伝えたい」→「知りたい」
・・・双方向性を意識する。
- 5) 対象者の関心を高められるか
・・・キャッチコピーを豊かにするには「100本ノック」=とにかくたくさん作ってみる。

- 1) 多様なメディアありました。ただし、伝える際にそのメディアを効果的に選んでいるのか?ハンズオンの例では、お父さんたちを巻き込んだ、ヤキモノの企画はラジオによる広報の反響が大きかった。
- 2) ターゲットを絞ってメディアを選んでいるか。
- 3) コストに配慮できているか・・・チラシは手軽なので使用される場合が多い。

チラシづくりのアドバイス

まわりの人からいろいろと意見をもらおうとよい。内容がよくなっていくことはもちろん。実は、その人たちがイベントの内容を気にかけてくれることによって情報を広げてもらえるプラス効果を期待できる。



第2回 魅力的な企画づくりとは? 1月24日(水)18:30~20:30

[参加者:29名]

活動団体が他の団体あるいは市民とコラボレーションするための企画のポイント、その企画づくりが第2回目の講座の狙いでした。「これまで企画書を作ったことがある人?」の質問には、約半数が作成したことがありました。



企画書作りのプロセス

- 1) 地域の課題に気づき、何とかしたいという思いつきでもよいから【仮テーマ】を決める。
- 2) 所属する団体の活動と、やりたいことを結びつける。まず、たたき台の企画書をつくる。
- 3) まわりの人に相談する。
- 4) 本当に必要か? なぜ必要か? 社会的背景をさぐり、データを集める。
- 5) 誰を対象にした活動か? 実現したい【本テーマ】を決める。
- 6) ここまでを振り返り、思いを整理できたら企画書完成! 財源確保、メンバー募集へ。

2例の企画書と比較

どこがどのように違うかの意見だしを行いました。Aは、レイアウトも整ってははっきりと具体的な内容で読みやすくわかりやすい。一方Bは、内容が整理されておらず、言いたいことが伝わらない、などの意見が出ました。

企画書作成の留意点として、読み手を思いやっているか、伝わっているか、を考えることが大切ということでした。

今回作成の企画書の4項目

- 1) 目的と目標
社会的必要性、将来性を訴える。
- 2) ターゲット
私たちはこの事業を、「どんな人」を対象に実施するか。
- 3) いつ、どこで、何を、どのように
アイデアの持ち寄りどころは。
- 4) 誰がやる?
持ち寄り資源(人・モノ・カネ・情報など)

企画書を作ってみる

自分の夢や普段の活動を企画書として4枚の用紙にまとめました。しかし、これには皆さん大苦戦? 未完成は次回の宿題になりました。

企画書作成のポイント

目的
どんな人に
どんなふうに
どんな人と

+

予算
スケジュール

第3回 活動・事業資金を調達するには?

1月31日(水)18:30~20:30 [参加者:28名]

助成金獲得のポイントや行政との協働について学びました。前回の講座を受けて、その企画内容をどのように「相手」に伝えるのか。活動団体にとっては現実の問題として、企画を実現するための費用をどうやって調達できるのかをシミュレーションしました。



最終講座となる今回のファシリテーターは、ハンズオン事務局長の若林明子さんに副代表の西川正さんも加わった最強タッグチーム。

元鶴ヶ島社協で助成金担当をされていた川田虎男さんもオブザーバー参加。

○15 提案のプレゼンテーションと投票

企画を3分間でプレゼンテーション。短い時間で企画意図をどのように伝えることができるのが最大のポイント。

参加者は審査委員として企画を聞き、後に投票しました。投票には、1人あたり1万円(ピンクの付箋1枚)と黄色い付箋2枚(お金は出せないが「こんな手伝いならできる」等を書き込む)で投票する。

企画書にはこういった点を示すとよいのか。今回のWSを通じて理解が深まりました。



「まちづくり研修講座」を開催しました

総合振興計画」と「市民が主役のまちづくり」について考える」

3月15日(木)18:30～20:30

[参加者:28名]

平成19年度から進められる第5次入間市総合振興計画の概要を学び、計画の実現に向けた市民と行政との協働について考えました。

前半は入間市企画課の長谷川功さんから「第5次入間市総合振興計画(平成19年度～28年度)」について、その概要を説明していただきました。「人が元気・まちが元気・自然が元気」の3点に着目した10年単位の基本構想に基づき、前期・後期の5年毎の基本計画、そして3年単位の実施計画が大きな構成要素になっている、とのことでした。



この総合振興計画には、平成13年度に行なわれた「元気な人間都市宣言」の趣旨である「市民が主役のまちづくり」と「市民と行政のパートナーシップ」が謳われていて、第4章の「計画の実現に向けて」の中に、市民と行政との協働の推進が、大きな柱として示されています。

このことを受けて、後半のワークショップでは、総合振興計画の「施策の大綱」にある6つのテーマ毎の各事業を、2テーマずつに店の看板料理として掲げた屋台を3つ設け、参加者は客となって屋台をハシゴしながら各テーマに対して、どのように協働ができそうなのか「屋台談義」を行いました。コーディネータの庄嶋孝広氏(市民社会パートナーズ代表)に導かれて、参加者は各屋台で協働談義に花を咲かせました。

参加者が提案した協働のアイデアは、

- ・ 幼児・学校教育の分野における放課後の教育支援活動、部活動、図書室ボランティア等が、また市民文化の分野においては、文化芸術を通したネットワーク作りや事業計画作成といった数多くの提案がありました。
- ・ 高齢者福祉や障害者福祉及び地域福祉といった分野では、各種相談や苦情の処理、就労支援ボランティアといった提案がありました。
- ・ 農業や商業分野では、市民農園や援農のシステム作り及び地産地消に係る提案がありました。
- ・ 公園や水辺の分野では、市民で花壇を作ったり、計画段階から市民参画を促し計画立案をするといった提案がありました。



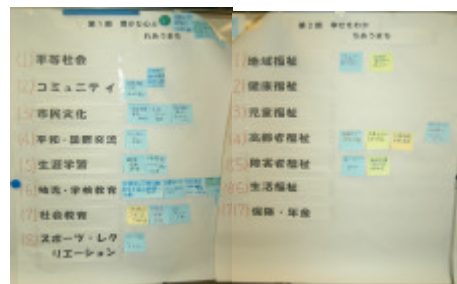
< 屋台式 WS ルールの説明 >



< 各屋台で協働談義 >



< 次の店へハシゴ >



< 協働のアイデア >

「でばんだ！ お父さんフォーラム 2007」を開催しました

テーマは「会社の人から社会の人へ」 2月10日(土)13:30～16:30

[参加者:106名]

フォーラム2007実行委員会主催で行われた「でばんだ！お父さんフォーラム2007」は、団塊の世代のお父さんやご婦人など100名を超える方が参加しました。まだまだエネルギーあふれる団塊の方々に、自分たちの経験、スキル、ネットワークを入間のまちで活かしていただく機会を提供するのがこのフォーラムの狙いでした。

「入間市は市民活動が盛んなのです！」という木下市長の挨拶から始まりました。



続いて大妻女子大の宮田先生の「会社の人から社会の人へ」と題する基調講演です。団塊の世代へのアンケート調査結果や自分を地域にマーケティングするためのSWAT分析法などの説明がありました。

そして、先生から団塊世代の皆さんへ「自分の老後の楽しみを求めるというのは自然な気持ちです。しかし、地域を自分のために使おうとしたら、まず自分を地域のために使ってみることを考えてみてはいかがでしょう。地域のために自分が何かやることが巡り巡って自分のためになるのです。自分の出番は自分で作るのです」といったメッセージがありました。

次のプログラムは、団塊世代のちょっと先輩からの事例発表5件です。

- 最初は加治丘陵山林管理グループの小沢盛久さんでした。主な活動として、鳥類や小動物・数々の動植物の保護、ハイキングコースの整備、遊歩道の建設や整備、雑木の間伐・下草刈、防災予防活動として山林内の火の用心プレート設置、しいたけ栽培などの活動を進めています。
- 入間市文化創造ネットワークの皆さんは、FM収録風景を模擬した団体の紹介を行いました。ゲストは67才の清水さんでサラリーマンを退職してから新しく地域活動として子供達とかまど作りそして火起こしを始めたのがきっかけとなってアミーゴでの活動に参加することになったそうです。キーワードは、退職したら自分をリセットです。
- 子育て支援センターの鳥村征弘さんは、企業で培ったものを更にプラスして地域に還元したいと思っていたところ、2年前にNPO法人あいくと出合ったそうです。毎月の子供への読み聞かせを通して、子育て活動の面白さを発見しました。一方、読み聞かせを通じて自分自身が学ぶことも多くあるそうです。まさに「人は人によって人になる」ということを実感されたそうです。
- 少年野球チームの木原さんは30年前にグリーンヒルに引っ越してきて奥さんの勧めで団地内の少年野球チームを見ることになりました。少年野球を通じて地域とつながりができ、1999年に退職後、地区の役員や評議員、入間市少年野球連盟の副会長などを経験して色々な地域活動に接するようになりました。全ては奥さんが地域に誘ってくれたお陰だそうです。
- 最後は、金子おやじの会の師岡英男さんです。11年前の公民館のおやじ講座が発端で、メンバーが集まるようになったそうです。会員の目標は様々なので親睦と地域の交流を深めることを第一に考え、数回の行事を行う中で、蕎麦打ちやIT講習などの軸ができてきました。そして生涯学習フェスティバルへも参加するようになり、地域の貢献も担うようになりました。



小沢盛久さん



入間市文化創造ネットワークの皆さん



鳥村征弘さん



木原猷和さん



師岡英男さん

プログラムの最後は、7つの市民活動団体のアピールタイムでした。短い割当て時間内に皆さん必死に団体の特徴を説明していました。

出席された団塊世代の皆さんはどの団体に興味を持たれたのでしょうか。配られた市内の活動団体紹介のガイドブックなども参考に、ぜひ新たな活躍の場を地域に求めていただきたいと思います。

まちサポネット元気からのお知らせ

11.3 あの舞台が漫画になりました



昨年の11月3日、市民会館の舞台で演じられた、市制施行40周年記念事業第2部の『「元気な入間」の5年間とこれから』を、漫画タッチの記録集としてまとめました。

台本を元に、当日の舞台の臨場感を、写真構成で再現しました。市民活動センターの掲示板にはすでにご案内していますが、近々まちサポネット元気のホームページ上でも公開します。お楽しみに！



「でばんだ！ お父さんフォーラム2007」の報告書ができました



「でばんだ！ お父さんフォーラム2007」が2月10日開催されました。フォーラムで市長から説明のあった「入間市のまちづくりと市民活動」や宮田先生の基調講演「会社の人から社会の人へ」の内容等、当日の様子をまとめた報告書ができました。参加できなかった方やもう一度確認したい方、記録として残したい方、必要な方は、窓口までご連絡ください。

また、市民活動センターのホームページからもダウンロードできますので、ご活用ください。

これからの「まちサポネット元気」について

まちサポネット元気も設立後、早や2年が過ぎました。これまでの事業展開や、昨年度から対応した市民活動センターの窓口業務を通じて、私たちの活動にも様々な課題が見えてきました。よりよいまちづくり活動支援を目指すために現在、組織体制や会則などの見直し作業を行っています。5月中旬に総会を予定し、新年度の事業方針が決まります。

その内容は、ホームページやニュースレターにてお知らせいたします。

会員を募集中

こんな方：

まちづくりに興味ある方
友達の輪を広げたい方
自分の特技を活かしたい方
何かやりたい方

市民活動センター窓口で私達に声を掛けて下さい



ここですよ

住所：入間市豊岡4-2-2
市民活動センター内

電話：04-2964-2511 FAX：04-2964-2519

E-mail：shimin@ictv.ne.jp

URL： <http://machisapo.web.infoseek.co.jp/>

